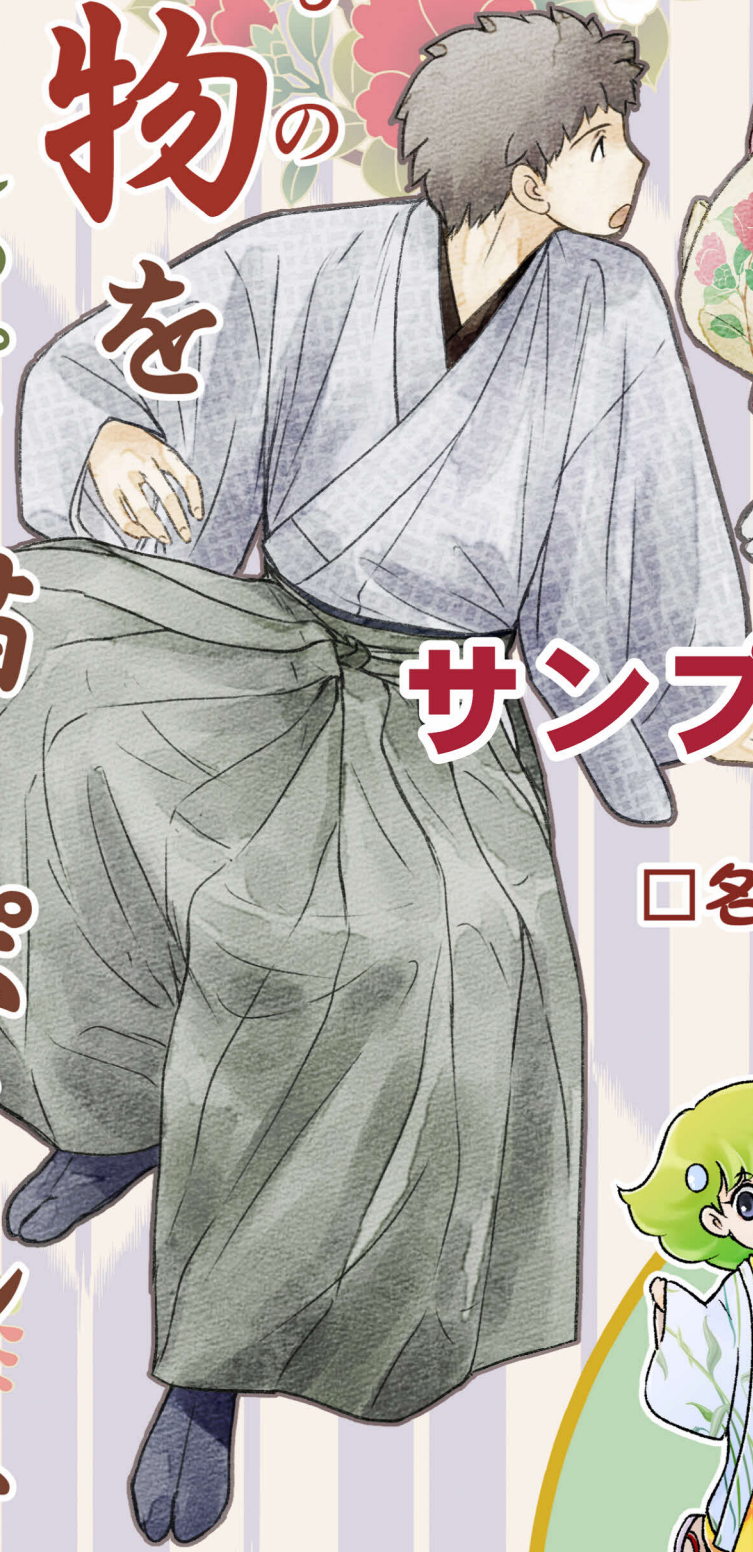


着物きものの 物を

それつぽく

描くポイント



サンプルPDF

□名称未設定□

By 摩耶薰子



サークル「名称未設定」の摩耶薫子と申します。

普段はComicStudio(コミスタ)やCLIP STUDIO PAINT(クリスタ)などの漫画ソフトの使い方などのノウハウの本を発行したりサイトを運営したりしていますが、今回は「着物」の本の発行になりました。

着物の絵を描こうと思っても、構造が解らないと写真や資料などを見てもなかなか参考にしづらいのではないかと思います。

そんなわけでこの本では、「着つけ」の話ではなく、絵を描く時に参考になる「構造」と意識すると「着物らしくなる」ポイントをご紹介しますつもりです。

また、袖や袂の描き方などはWebなどでも講座を公開してくださっている方が大勢いらっしゃいますが、袖の中がどうなっているか、裾の線は何重に描けばいいのかなどは、着つけの方法を見てもなかなかピンポイントでは解りにくいかなと思いますので、この本では着方や着物の種類別にご紹介しました。また、相対的に講座などが少ない「袴」については多めのページでご紹介しました。帯結びも、描く際に参考にできるように「構造図」を付けました。

内容につきましては、基本的には一般的な「現代の着つけ」ですが、多少時代衣装との比較や明治以前の着つけ、帯結びのご紹介もしています。

内容は着物着つけ講師の資格を所有しています相方の堀川むつみにもチェックをしてもらっていますが、私自身は普通の着物が普通に着られる程度です。堀川も現在現役で講師をしているわけではなく、私も服飾史や風俗史の知識があるわけでも和裁ができるわけでもありません。

何か間違った点などがありましたらご容赦ください。

説明にはなるべく正式名称を使うようにしていますので、より詳しくお知りになりたい場合は、その語句でお調べになってみてください。

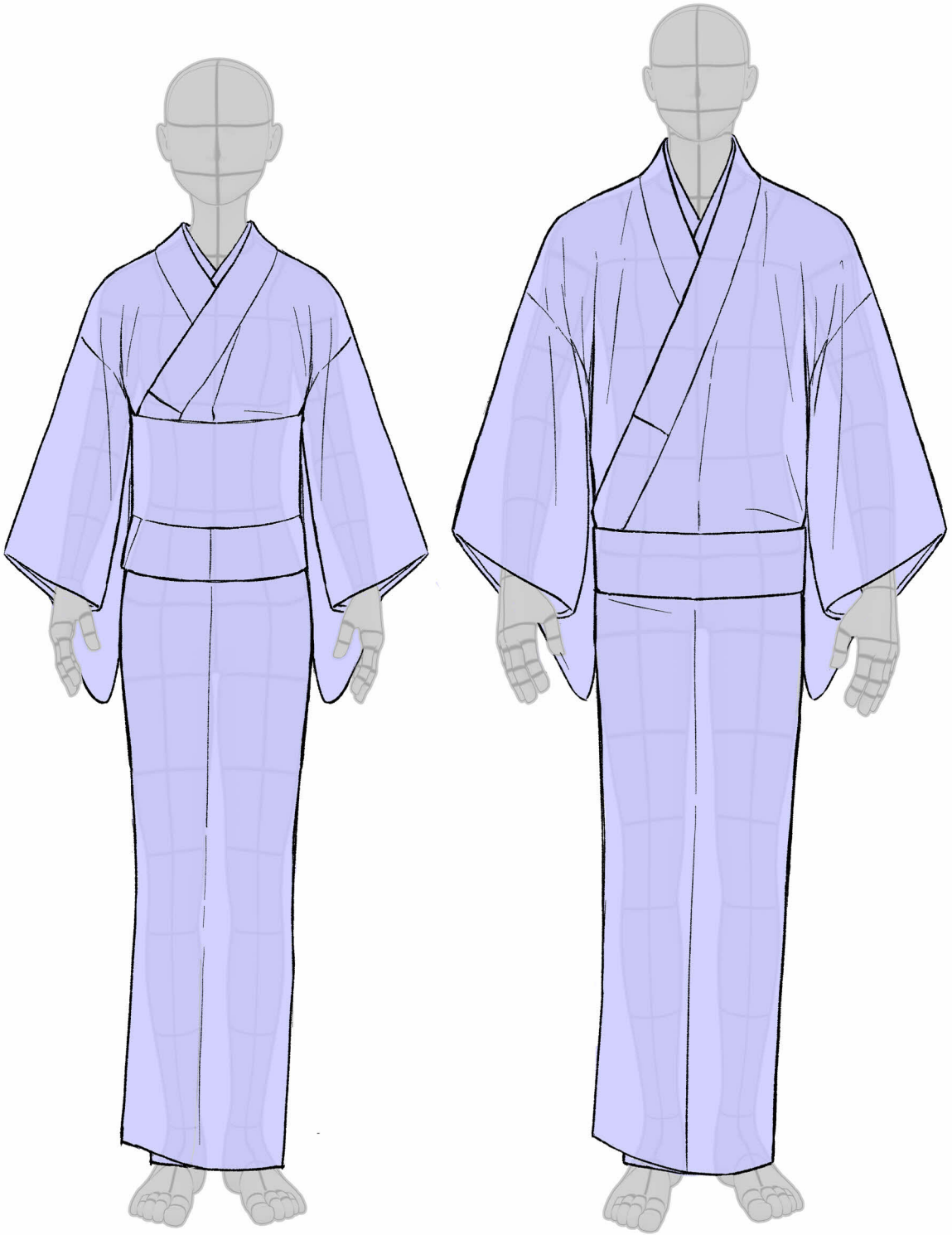
なお、参考資料とさせていただきます書籍やサイトは、巻末に記載させていただきます。

この本が創作活動の一助になりますように。



摩耶薫子

・着物をそれっぽく描くポイント	5
打ち合わせ・おはしより	6
衿(えり)幅・袖付(そでつけ)位置・衿(おくみ)線・掛け衿	7
背中心	9
・衿の抜き方	10
・帯結び	11
・女帯	12
お太鼓	12
半幅文庫	13
貝の口・変わり貝の口・カルタ・変わり割り角出し	14
お太鼓以外の帯結び	15
江戸庶民の帯(昼夜帯)・引っ掛け結び	15
角出し(本角出し)・お七帯(お染帯)	16
丸帯・袋帯・文庫	17
立て矢・現代の振り袖の帯結び	18
・帯締め・帯揚げ	19
・男帯	20
貝の口・一文字・神田結び・片ばさみ(浪人結び)・横一文字	21
・帯を解いたらどうなる?・襦袢(じゅばん)	22
・衿元、袖口、袂(たもと)、裾(すそ)には何本の線をどう引けばいい?	24
浴衣	25
単衣(ひとえ)	26
袷(あわせ)1	27
袷(あわせ)2	28
伊達衿	29
襲(かさね)と比翼仕立て	30
・袴をそれっぽく描くポイント	32
馬乗袴	32
伊賀袴	38
女袴	39
・巫女装束	40
・羽織・女羽織	42
・着物の模様と紋	44
・尻はしより	45
・襷(たすき)がけ	45
・子供	46
・履物	46
足袋(たび)	46
下駄(げた)・草履(ぞうり)・草鞋(わらじ)	47
・着丈の話	48



着物をそれっぽく描くポイント

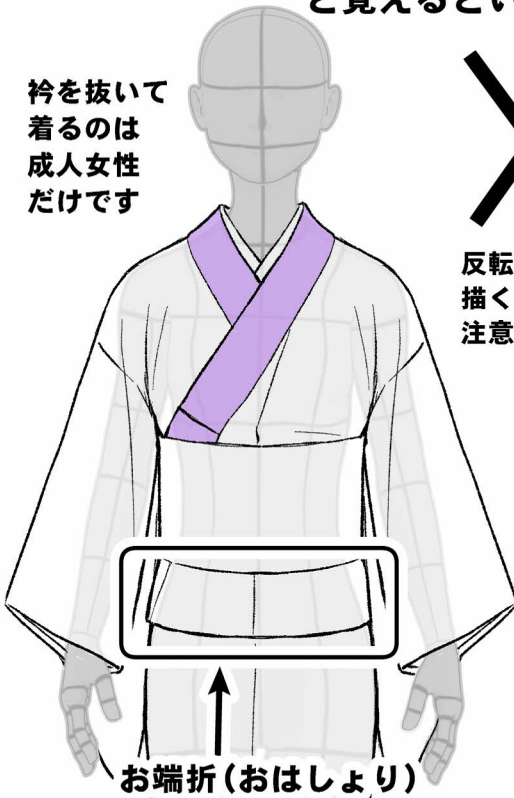
基礎知識

着物の打ち合わせは男女とも必ず右前です

「右手がすっと入る」

「アルファベット小文字のy」と覚えるといいかと思えます

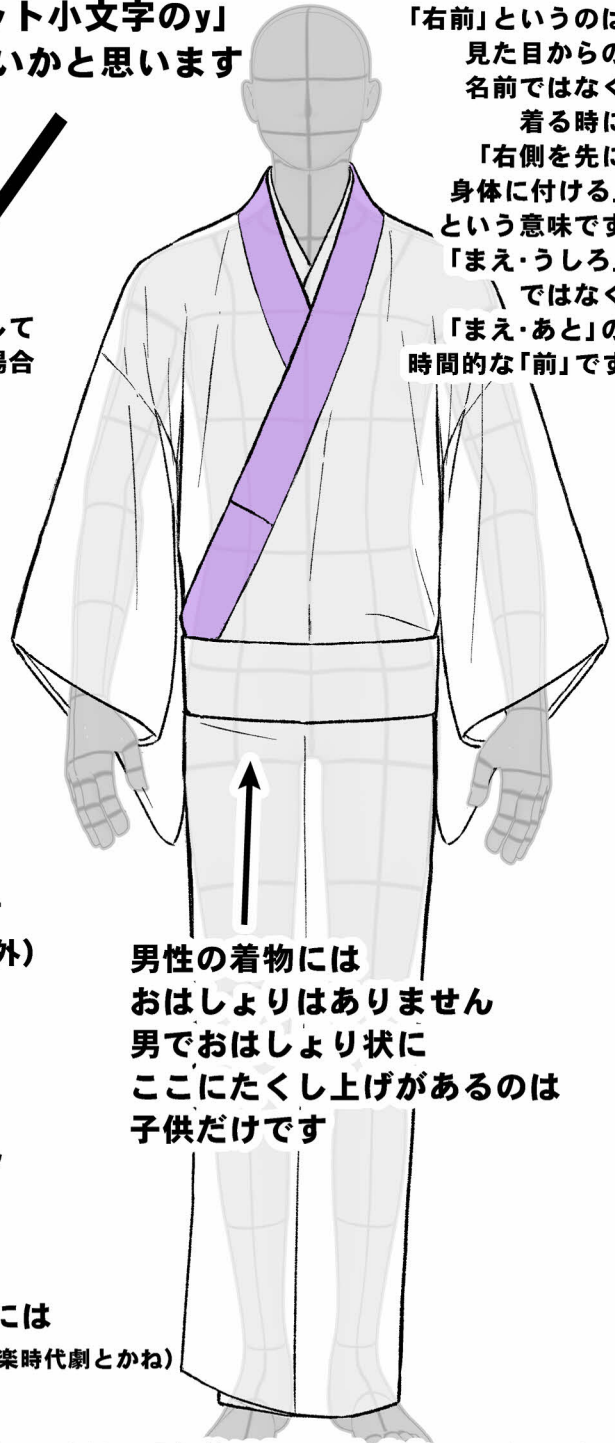
「右前」というのは見た目からの名前ではなく、着る時に「右側を先に身体に付ける」という意味です。「まえ・うしろ」ではなく「まえ・あと」の時間的な「前」です



衿を抜いて着るのは成人女性だけです



反転して描く場合注意



女性の着物にはおはしよりがあります(下着や温泉旅館などの寝間着浴衣以外)おしゃれ着としての浴衣でもおはしよりはありますこれは長い丈の着物をたくしあげているだけなのでここだけ別の布地だったりしませんただ現代のようなおはしよりは明治時代以降のものなのでそれ以前の時代衣装にこういうおはしよりがあるのは、厳密にはおかしいということになります(TVの娯楽時代劇とかね)

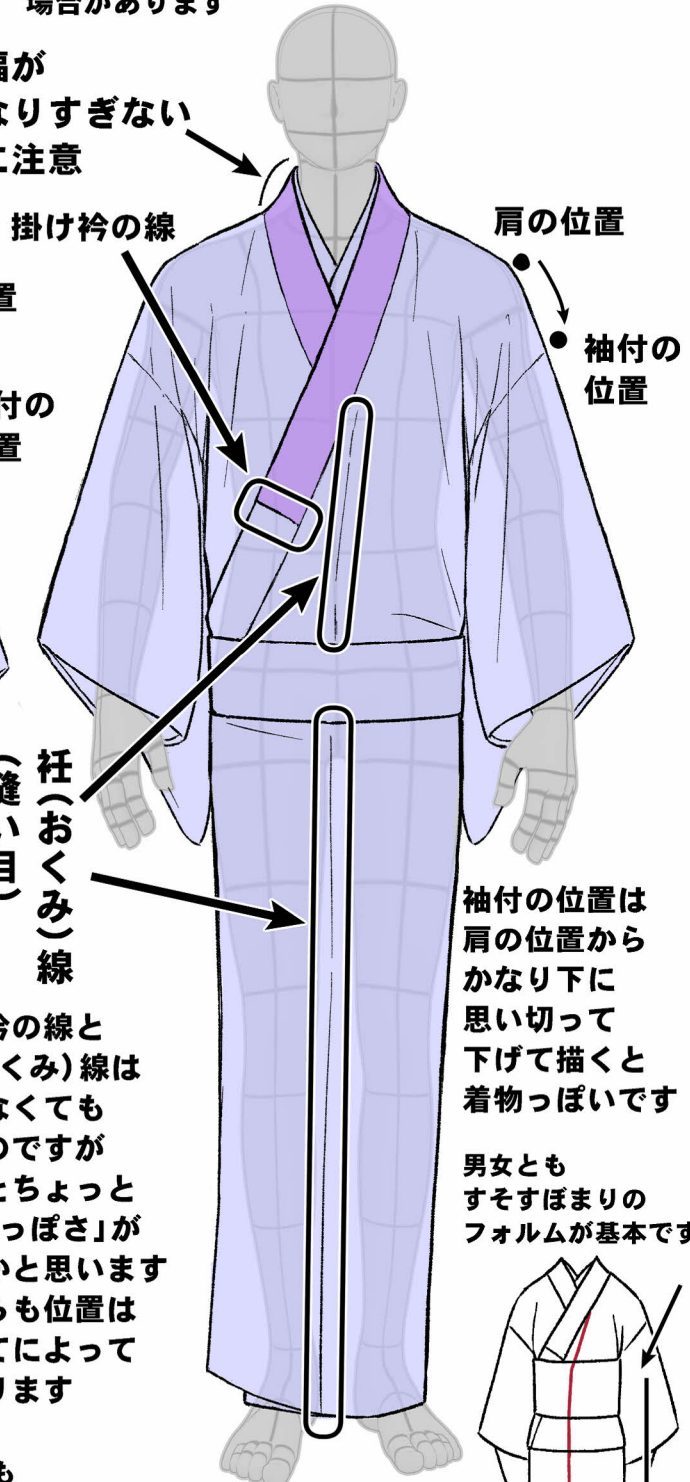
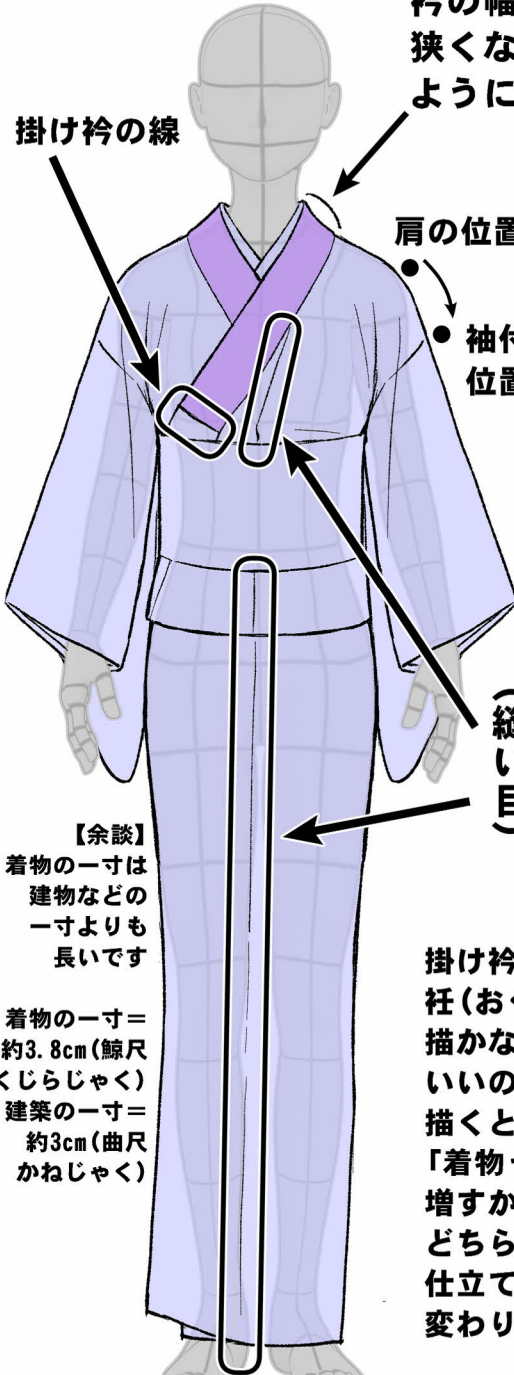
男性の着物にはおはしよりはがありません男でおはしより状にここにたくし上げがあるのは子供だけです

着物の打ち合わせは日本では西暦719年に法律で「左前は禁止」とされたそうです諸説はあるようですが、とにかくその頃(奈良時代)以降、日本では生きてる人は全員、男でも女でも、着物は右前で着ます(衣服令(えぶくりょう)「初令天下百姓右襟」)現代でも、アレンジ着物やファンタジー着物のデザインでも「着物」ベースである限り、生きてるキャラには左前は着せないほうがいいです逆に幽霊や死神のようなキャラに、あえて「死に装束」の左前を着せるのはあります

衿の色の部分を「掛け衿」と言いますが
現代の着物は普通
身ごろと同じ布地(共衿)です

衿の幅は、男や浴衣でも最低一寸五分(約5.7cm)
女物だと首周りでも二寸(約7.6cm)ほどになる
場合があります

衿の幅が
狭くなりすぎない
ように注意



掛け衿の線

掛け衿の線

肩の位置

肩の位置

袖付の位置

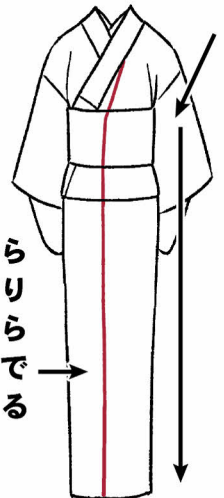
袖付の位置

衿(おくみ)線
(縫い目)

掛け衿の線と
衿(おくみ)線は
描かなくても
いいのですが
描くとちょっと
「着物っぽさ」が
増すかと思えます
どちらも位置は
仕立てによって
変わります

袖付の位置は
肩の位置から
かなり下に
思い切って
下げて描くと
着物っぽいです

男女とも
すそすぼまりの
フォルムが基本です



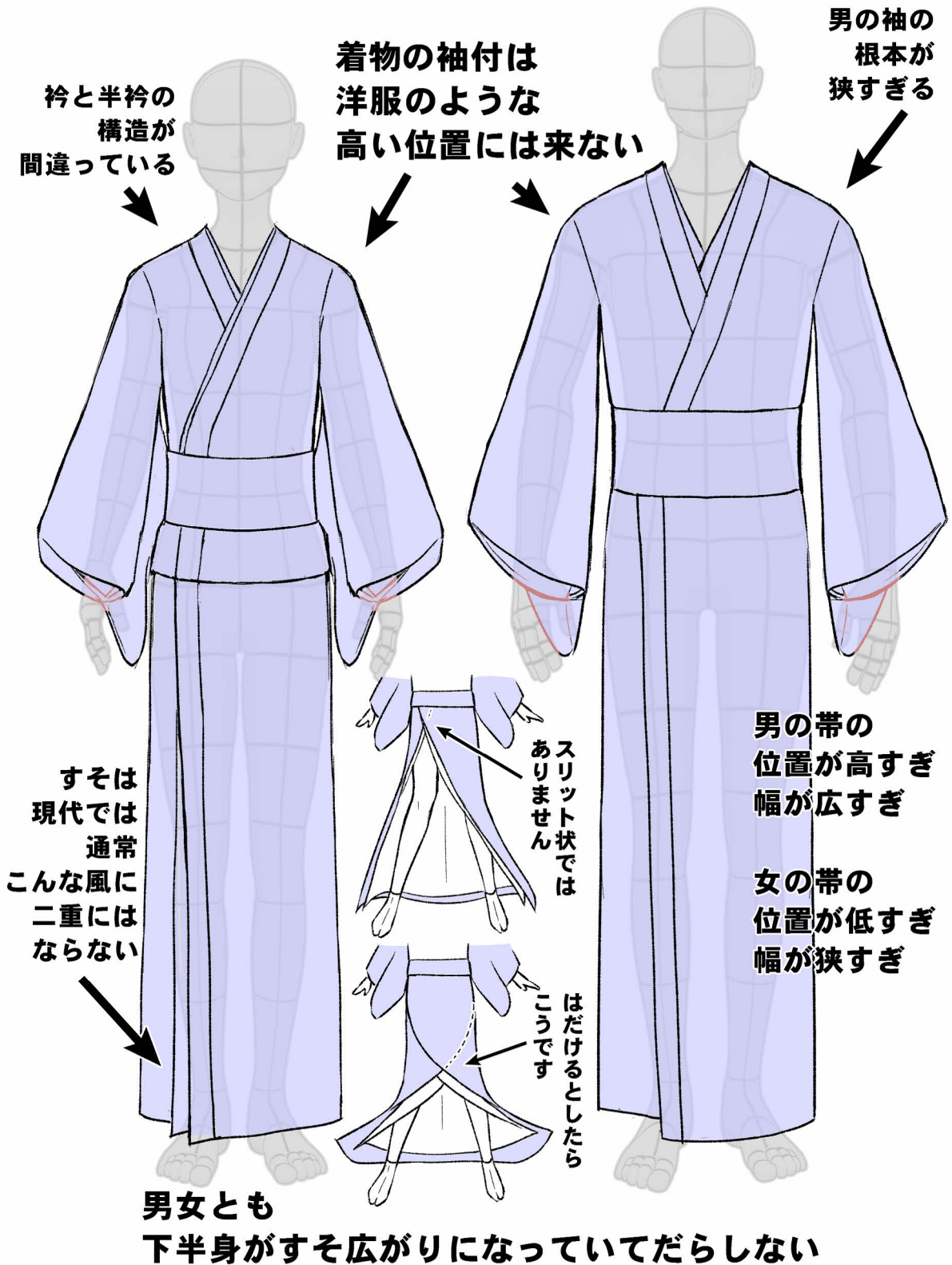
【余談】
着物の一寸は
建物などの
一寸よりも
長いです

着物の一寸＝
約3.8cm(鯨尺
くじらじゃく)
建築の一寸＝
約3cm(曲尺
かねじゃく)

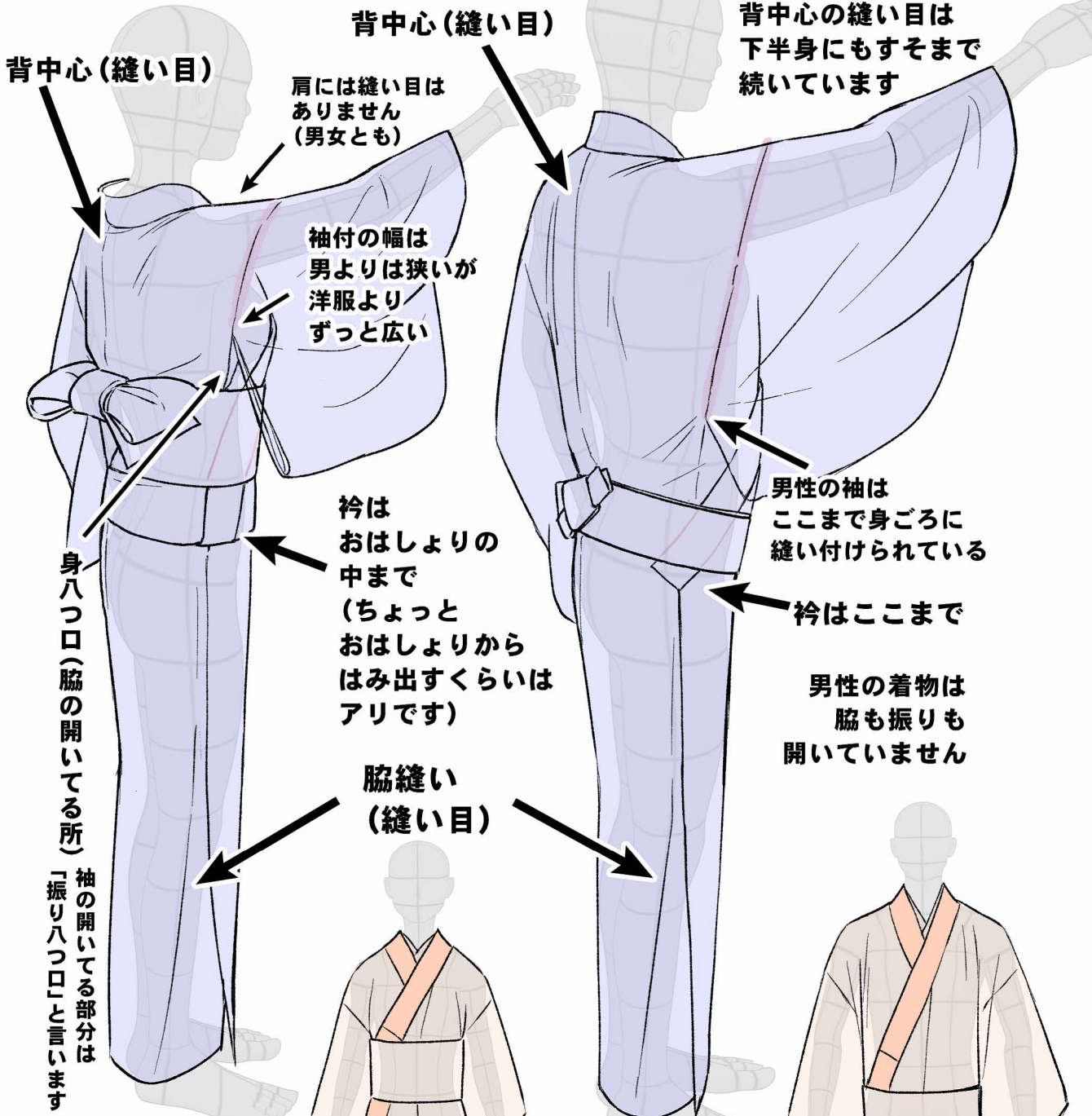
絵柄、デフォルメにもよりますが男女とも
洋服時よりも下半身は短めの方が
おさまりがいいです(特に男)
また、腕が長めの絵柄の人は
心持ち腕も短めにしてみると
おさまりがよくなるかもしれません

衿線は、衿の合わせ目あたりから
ちょっと斜めになって下がり
帯から下は、身体の中心から
心持ち向かって左寄りの位置で
まっすぐ降りる

**衿の幅が狭すぎる、打ち合わせが浅すぎる
衿がすそまで続いているのは間違い**



【余談】着物の「打ち合わせ」の意味で「袷(あわせ)」という字を使うのは間違いです
「袷(あわせ)」の字には「裏地がある(着物)」という意味しかありません
対語は「単衣(ひとえ)」で意味は「裏地がない(着物)」です



脇縫いや背中心の縫い目も描かなくてもおかしくないですが特に背中心は描くと背中側のアングルの時おさまりがいいと思います

襟がすそまで続いているのは間違いです下着(長襦袢)に見えてしまいます

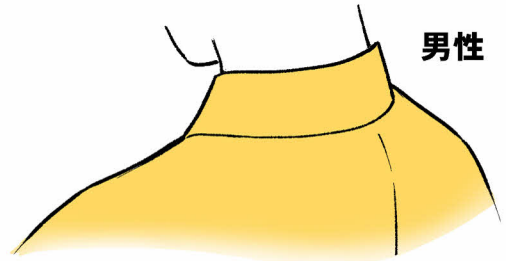
衿の抜き方

衿(衣紋(えもん))を抜いて着るのは成人女性だけです
 男性は抜きません
 また、女性でも子供は抜きません



控えめな抜き

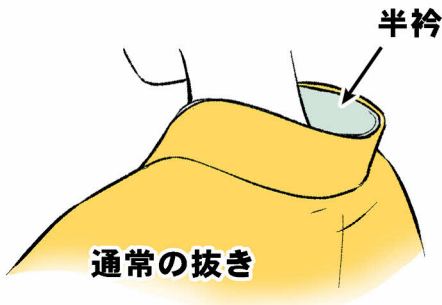
中に半衿が見える
 (浴衣の場合は半衿はナシ)



男性

成人女性だけの着方ということは、衿の抜き具合は基本的に「女性的お色気度」「女性的着飾り度」に比例すると考えていいかと思います

浴衣の場合は本来はあまり着飾るものではないので普通、抜きは多少控えめで着付けます



通常の抜き

半衿

衿の後半分は、現代の「きちんとした着付け」では衿を抜いても半衿は衿からはみ出しません(男女とも)

ただ、絵で描く時にちょっと画面が寂しい場合など多少覗かせて描くのもありかなとは思いますがただしあまり「きちんとした」印象にはなりません
 なお、昭和初期くらいまではわりと普段ははみ出し放題だったみたいです



大きく抜いた衿

半衿

この「衿を抜く」という着方は江戸時代に入って、髪型の流行りがうなじに大きく張り出す結い方になってきて衿を髪油などで汚さないために発明されたものです

ですので、それ以前の時代の衣装では女性でも衿は抜いていません
 巫女装束などは、元来の原型がかなり古い装束なので、そういう点からも衿はほとんど抜きません



半衿がはみ出した状態

半衿

衿を抜いた着方は、本来「結い上げた髪」にあわせた着方になるので、結い上げない「垂らし髪」とは相性がよくないです

巫女さんもそうですが、明治大正の女学生なども「お色気控えめ」という理由以外に当時の流行の「垂らし髪」の邪魔になるためあまり衿は抜かずに着ていたようです



伊達衿を付けている状態
 伊達衿については別ページで

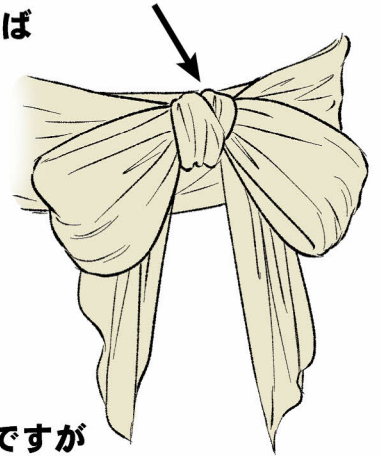
中に半衿(浴衣の場合は半衿はナシ)

伊達衿

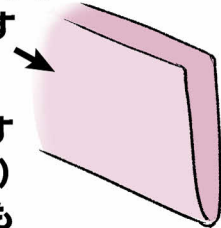
帯結び

帯結びは非常に沢山の種類がありますし
色々なアレンジ結びもあります
全部などはとてもご紹介できませんので
ここでは代表的なものをざっとご案内します

まず基本的な知識として、着物の帯というのは通常
やわらかめの帯でも、布としては結構堅いものです
ですので、普通の帯ではこんな風なチョウチョ結びにはなりません
「兵児帯(へこおび)」という特に柔らかい素材の帯ならば
簡単にこんな感じでも結ぶことができますが
現在兵児帯は子供か、ものすごくくだけた場面であら
まあいかな、という位置づけになっています
昔は下級武士などが袴の下の帯結びに
兵児帯を締めることもあったそうです

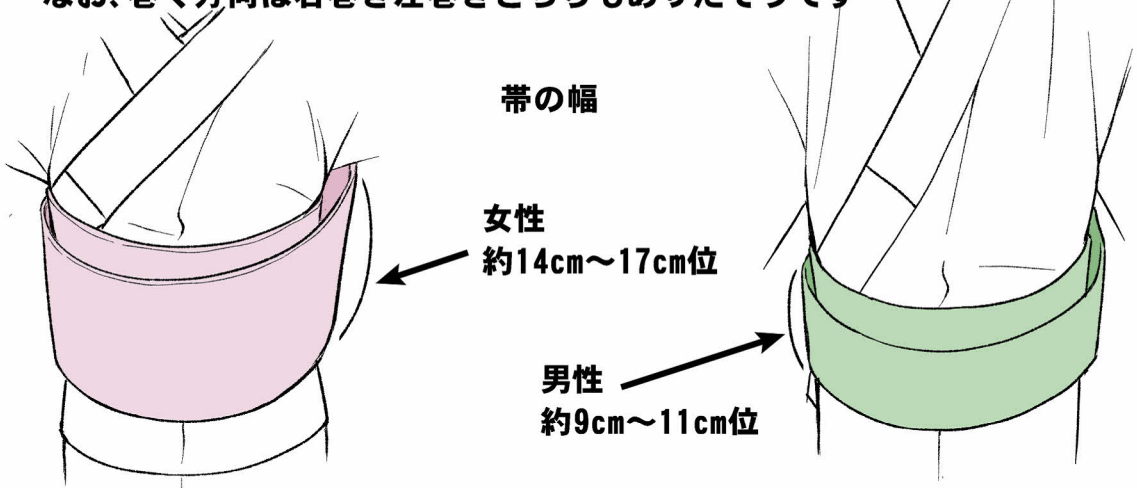


通常の帯は堅いだけではなく、厚みも結構あります
特に女性の帯は、胴体に巻きつける部分は
広い帯を半分に折って巻きつけたりします
現在は巻きつける幅に縫い付けられているものも多いですが
縫い付けられているだけで、やっぱり厚みは二枚重ねです



折山が下

また、男女とも胴体には帯は通常ふた巻きします
(男性は三回巻く場合も)
絵で描く際には、厳密に二重にはなってなくても
かまわないとは思いますが
結構厚みがある、ということ意識して描くと
らしくなると思います
なお、巻く方向は右巻き左巻きどちらもありだそうです



現代では帯の幅は細い方がカジュアルな感じですが
女性の帯の幅がこんなに広くなったのは
江戸時代に入って結構経ったあとのようです